

広報

のあさひ

No.352

'86

3/15



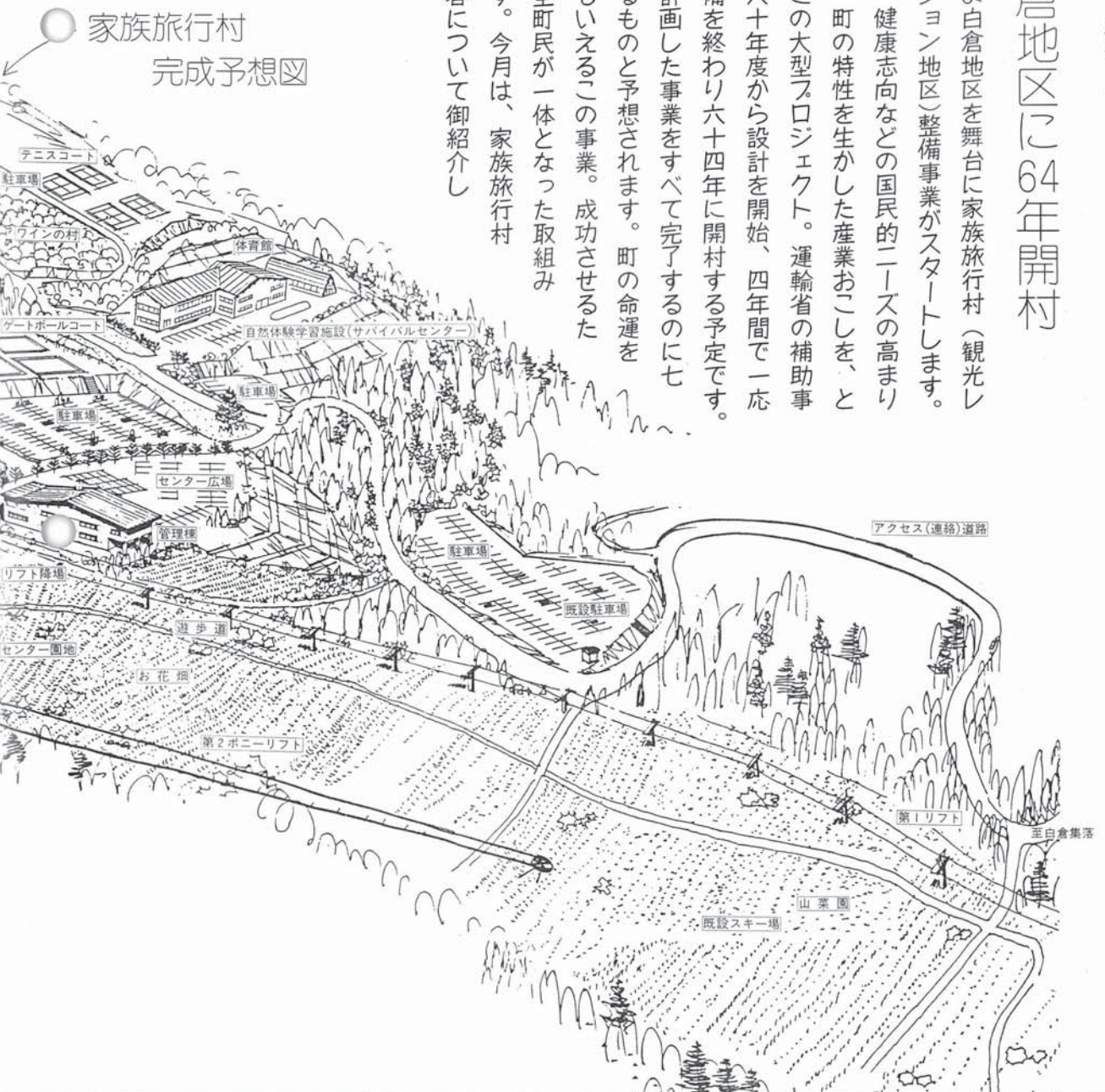
ブランデーづくりに挑む

は山村が先頭に立つ時代

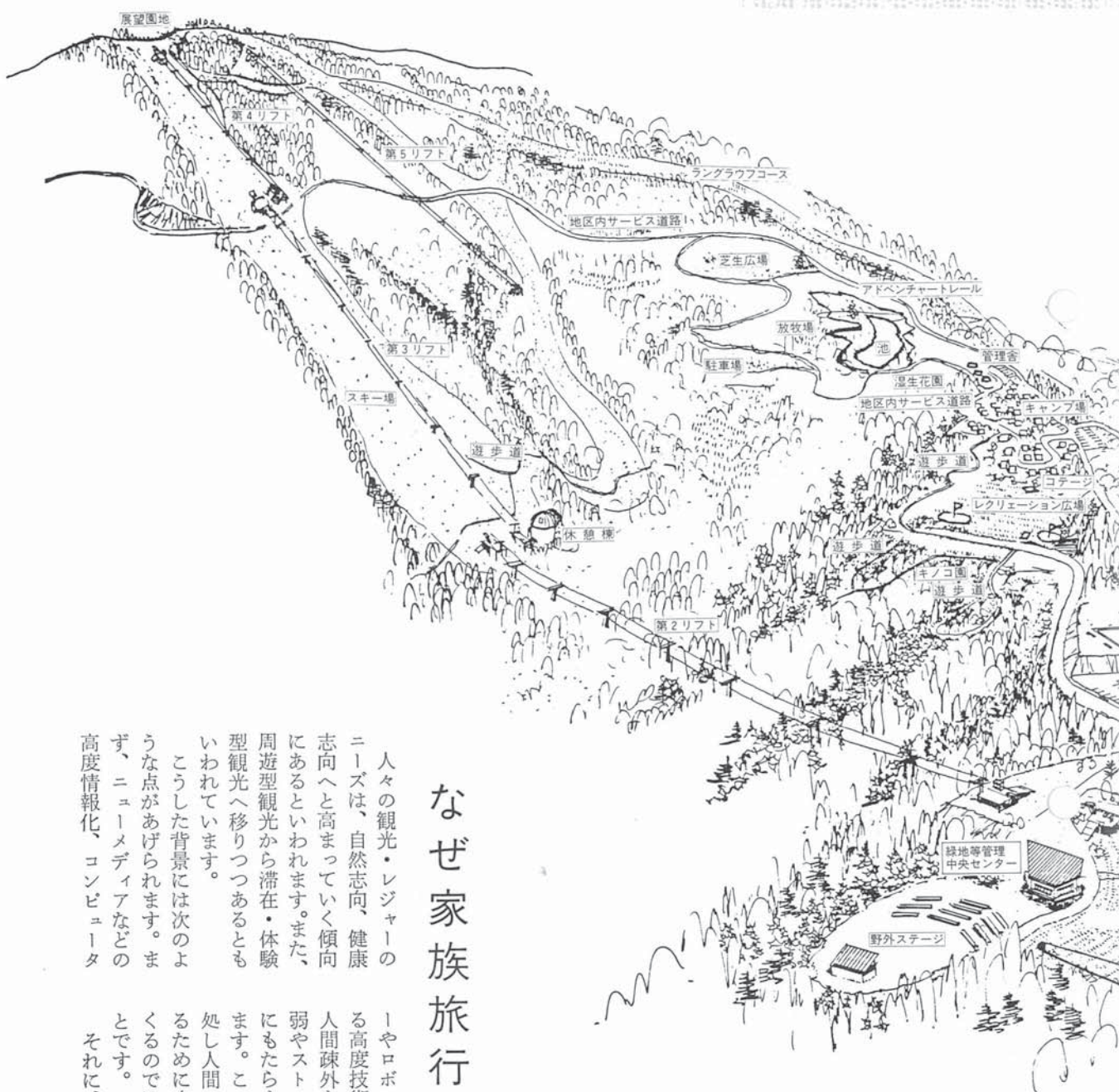
動き出した家族旅行村

*白倉地区に64年開村

いよいよ白倉地区を舞台に家族旅行村（観光レクリエーション地区）整備事業がスタートします。自然志向、健康志向などの国民的ニーズの高まりに対応し、町の特性を生かした産業おこしを、と始まったこの大型プロジェクト。運輸省の補助事業で昭和六十年代から設計を開始、四年間で一応の施設整備を終わり六十四年に開村する予定です。しかし、計画した事業をすべて完了するのに七年はかかるものと予想されます。町の命運をかけたともいえるこの事業。成功させるためには、全町民が一体となった取り組みが必要です。今月は、家族旅行村計画の全容について御紹介しましょう。



21世紀



なぜ家族旅行村か

人々の観光・レジャーのニーズは、自然志向、健康志向へと高まっていく傾向にあるといわれます。また、周遊型観光から滞在・体験型観光へ移りつつあるともいわれています。

こうした背景には次のような点があげられます。まず、ニューメディアなどの高度情報化、コンピュータ

ーやロボット化に代表される高度技術の進展により、人間疎外を生み出し神経衰弱やストレス、不安を人間にもたらすことが予想されます。このような問題に対処し人間の主体性を回復するために自然が求められてくるのではないかとということです。

それに、週休二日制や長

期休暇の普及により余暇が増大し、ゆとりややすらぎを求める滞在型観光へと移行し、さらに一カ所で自然に親しめ、テニスも釣りもでき、保養もできるといった多目的レジャーがふえてくるといわれています。

これらのニーズに応えることと、町の活性化と村おこしが家族旅行村開村の大きな目的です。

わが町における過疎の進

自然体験型の観光地に

白倉にはこれまでスキー場を整備し、現在の規模にしてはまずまずの誘客がなされています。旅行村はこのスキー場をベースに、さらにグレンデヤリフトを延ばしていくことと、夏場の自然体験学習、レジャーのための各種施設を整備し四季を通じた誘客をはかろうと考えています。

白倉はブナやミズナラなど落葉広葉樹林でおおわれており、できるだけそうした条件をこわさずに施設整

行はゆるやかになったものの、依然として人口は微減の傾向にあります。就労の場は少なく、所得水準もけっして高いとはいえません。

こうした課題を解決する起爆剤として家族旅行村を整備し、豊かな自然と農林水産物など地域の資源を生かした産業おこしを展開しようというねらいがあります。

備をして、あくまでもつくられていないほんとうの自然の中に身を置いて、本来の人間性を取りもどしてもらえるような環境づくりをしたいと考えています。

そうしたことから建物を建てる場合も、周囲の自然景観に合ったものがぜひ必要になってきます。

誘客の範囲としては、県内をはじめ、仙台、東京までを見込んでおり、それだけに人の気持ちをひきつける村づくりをしなければなら

りません。またサバイバルセンター(自然体験学習施設)には、林間学校を誘致

事業費は14億5千万円

ここで、整備計画について触れてみましょう。

まず、計画されている土地ですが、白倉集落から上に向かって横ダキの頂上(標高七六六メートル)まで約一〇〇畝を見込んでいます。

そのうち町有地は約二〇畝、民有地が約八〇畝となっており、民有地については事業用地(約二四畝)は買収し、その他は借り受けという形で対処する計画です。

つぎに施設整備ですが、六十四年の開村までに、スキー上・中級者用グレンデヤリフト、ラングラウフ用スキーコースをはじめ、キャンプ場、展望園地、レクリエーション広場、コテージ(一戸建簡

したり、虚弱体質の子どもの鍛練の場として活用してもらおうと考えています。

易宿泊施設)などが整備され、開村後、アドベンチャートレイルや野外ステーション、せせらぎ、きのこ園、山菜園、お花畑、遊歩道などの施設が年次計画で整備されます。

立木から白倉までのアクセス(連絡道路)については



大自然の中で観察する子どもたち

部分改良を年次計画で進め、拡幅整備をはかっていきます。また、県道では夏草地内が最も狭く不便をきたしており、拡幅整備を早急に進める必要があります。

事業費は総額で十四億五千万円。旅行村補助関係が二億七千万円、そのほか農村基盤総合整備事業や林業構造改善事業などの有利な補助事業を導入したり、有利な起債を活用し、財源を確保していきます。

さらに、現在予算に計上している分のほかに、県立サバイバルセンター(自然体験学習施設)の設置を県に対して要望しています。サバイバルセンターは、自然を通じた体験学習や生涯学習を行い豊かな心を育むことを目的としたもので、二〇〇人宿泊可能な施設を予定しています。

運営は行政か

第三セクターか

開村を三年後にひかえ、旅行村の管理・運営形態をどうしていくのか、これか

ら検討を重ねていきます。
町内の有識者十人からなる「家族旅行村管理運営等検討委員会」が組織され、三月二十日、第一回委員会が開かれ望ましい形態の策定へ向け審議がスタートします。

この検討委員会では、旅行村の管理運営形態のほか特産品開発研究の組織形態などについても、あらゆる

角度から審議されるわけですが、果たして行政主導が望ましいのか、それとも第三セクターか、あるいは民間主体がよいのか、徹底した議論が展開されることを期待したいものです。

資源を生かした 特産品づくりを

遠くからお客さんが来る

ようになれば、
珍しい郷土料理

やみやげものな
どもぜひ必要に
なってきます。

そこで、地域
でとれる山菜、
きのこ、木の实、
溪流魚などの農
林水産物を食膳

に出したり、加
工してみやげも
のにしたりする
ことが可能にな
ります。

町特産のリン
ゴやワインをこ
こでも十分生か
せるわけで、リ

ンゴの加工品をみやげもの
にしたり、ワインと牛肉を
セットにして食膳に出した
りすることができると思い
ます。

また、食べ物だけでなく
昔から生活用具として使わ
れてきたワラ細工やソル細
工の民具なども十分みやげ
ものになります。

こうした地域の資源を活
用した特産品づくりをこれ
からぜひ進めていく必要が
あります。

地元産品を旅行村で生か
すことは、客に喜ばれる一
方で地域の産業ともなり得
るわけです。単に観光客の
誘致にとどまらず、農業を
観光と結びつけ、創意と工
夫でより以上の効果を上げ
ることができるようではない
でしょうか。

誘客のため 美しい町並みに

家族旅行村は単に白倉だ
けの問題ではありません。
村へ行くまでは町内を必ず
通っていくわけです。途中

の町並みが美しくなければ
旅行村へ人をひきつけるこ
とはできません。

建物の形や色を統一した
り制限したりすることも美
しい町並みの条件でしょ
う。あるいは道路の両側を
リンゴ並木にしたり、花を
植えることなども一つの方
法でしょう。空かんやゴミ

夢とロマン漂う旅行村に

自然体験志向、滞在型旅
行などが国民のレジャーの
傾向とはいえ、ほかにもこ
ういった観光地はふえてく
ると思われまふ。要は、人
々は白倉を選んでくれるか
どうか、選んでくれるよう
にするためにはどうすれば
よいかを考えなければなら
ません。

それには、この事業に深
い思想と哲学が入っていな
ければなりません。接待の
まずさや営利中心に走るな
ど、こて先で人を呼ぶこと
はできません。

都会のさつぱとした環
境で神経をすり減らした人

が一つも落ちていない道路
を通るのはとても気持ちの
いいものです。

旅行村の成功によって町
内に波及する効果はいろい
ろな形で表われてくると思
います。開村へ向けて、町
民みんなの意見を出しなが
ら、意識を盛り上げていき
たいものです。

たちの心を、温かく包んで
やるような潤いに満ちた旅
行村、都会には一切ないよ
うな自然の文化があふれた
旅行村であるならば、人々
はしぜんに朝日町へ集まっ
てくるでしょう。

また、ここに来なければ
ぜったいに飲んだり食べたり
できないオリジナルがな
ければなりません。旅行村
を支えてゆくには若い後継
者もぜひ必要です。

これまでの都市中心の時
代から山村の時代へ向けて
町全体の家族旅行村とし
て、町民総参加の態勢です
すめていきたいものです。



旅行村が計画されている白倉地区
全景（中央が既設スキー場）



新国民年金4月1日スタート

基礎年金に会社員や公務員も加入

昭和六十一年四月一日から、新しい年金制度がスタートします。

この新制度は、高齢化がピークを迎える二十一世紀前半を乗り切るため、給付・負担水準の適正化を大きな目的としています。つまり、六十五歳以上の人が総人口の約二〇％に達すると予測される昭和九十五年ごろに、制度を支える世代の数に比べて、年金を受給する世代の数が非常にふるために、今から対処していこうというものです。

制度の再編成……基礎年金の導入

*基礎年金とは

年金制度改正の最大の特徴は、「基礎年金」を設けることです。

現行の国民年金は自営業や、自由業などの人だけが強制加入ですが、いわば「新国民年金」に当たる「基礎年金」には、二十歳～六十歳の人ならば、現在の厚生

年金や共済年金の被保険者、その配偶者も強制加入となります。

いわゆる基礎年金には国民すべてが入り、支えるようになり、国民すべてに共通する年金を支給することになります。

*基礎年金

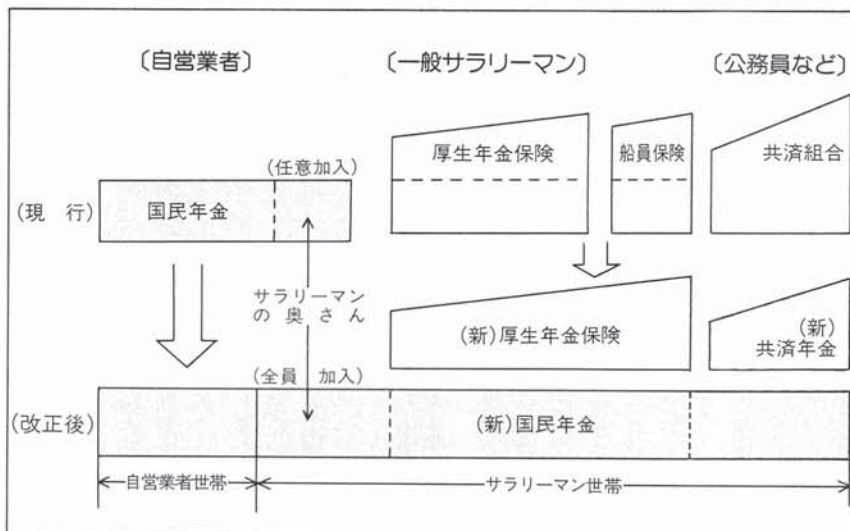
導入のねらい

● 国民みんなで支える制度ですので安心します。

● 基礎年金の部分は、年金と保険料の面でも入っている人が同じ条件で扱われますので、個人の間でも制度の間でも公平になります。

● 「一人一年金」の原則により、重複給付がなくなります。

*年金のしくみはこう変わる



婦人の年金権の確立

*自分の名前で

基礎年金

現在、厚生年金・共済年金などに加入している人の配偶者は、現行では国民年金へ任意加入するか、しなくともよいかのどちらかでした。これが新年金制度では「基礎年金」へ強制加入となります。

これによって任意加入していなかった人が、障害者になったり、高齢離婚した場合などにも、無年金者に

なることがなくなります。

*世帯構成によって

受ける年金がちがう

現在、厚生年金を受けている世帯の場合、夫婦世帯と単身世帯とでは「配偶者加給分」の差しかありません。

改正案では夫婦世帯で奥さんの基礎年金が別に支給されることにより、夫婦世帯と単身世帯の受けられる年金が、生活実態を考えた形でちがってきます。

基礎年金は三種類

老齢基礎年金

年をとったとき



老齢基礎年金は、現在の老齢年金に当たるもので、国民年金に二十五年以上加入した人が六十五歳になるとうけられ、年金額は六十万円（月額五万円）です。ただし、この額は、二十歳から六十歳になるまでの四十年加入した場合であって、かりに、四十年の間に

保険料の未納期間があった場合はその分だけ減額されることになります。

中高年者の特例

国民年金の保険料納付が始まったのは、昭和三十六年四月です。このとき二十歳以上であった人（昭和十六年四月一日以前に生まれただ人）は、六十歳になるまでに四十年加入することができません。

そこで、これらの人について三十六年四月以降、六十歳になるまでの期間（加入可能年数）すべて保険料を納付している場合は、四十年加入したものとみなして、月額五万円の老齢基礎年金が支給されます。

大正15年4月1日

以前生まれただ人は

施行日（四月一日）に六十歳を超えているかたは、現行の年金制度がそのまま適用されます。また、現在年金を受給中の人は、現行のままの年金額を引き続き受給することになります。

障害基礎年金

身体障害になったとき



年金額など

大幅に充実、改善

現在の障害年金は、拠出年金と福祉年金（二十歳前に障害のある人などがうける年金）とでは保険料の納付の有無から、年金額に開きがあります。

しかし、新国民年金では、障害基礎年金として一本化され、二十歳に達したときから年金が支給されます。この結果、保険料の滞納などがない限り、すべての成人障害者に対して、障害基礎年金が支給されることとなります。

また、現行の障害福祉年金の受給者は、改正後にはすべて障害基礎年金の受給者となりますので、年金のうける額も大幅にアップす

ることになります。

障害基礎年金の年額は、一級が七十五万円（月額六万二千五百円）、二級は六十万円（月額五万円）です。さらに、受給者が十八歳未満の子、または、二十歳未満で一級・二級の障害の状態にある子を扶養している場合は、一定の額が加算されます。

遺族基礎年金

遺族となったとき



子のある妻

または子に支給

現在の母子年金、準母子年金、遺児年金が遺族基礎年金に一本化されます。

遺族基礎年金は、加入者や老齢基礎年金をうけられる人が亡くなったとき、その人の収入で生活していた子のある妻または子に支給されます。

ヨーロッパを視察してきた役場企画課の鈴木康宏主事の感想を先月に引き続き御紹介します。今回は、スペイン、フランス、西ドイツの国々のようすとまとめです。

六日目、飛行機がマドリード上空にさしかかると赤茶けた砂漠化した台地が見えてきました。これまでの国で見た緑の台地とはまったく異なる光景でした。

スペインという「遅れた国」というイメージがありました。実際行ってみて他のヨーロッパと決して劣らない発展をしていたというのが私の率直な感想でした。

また、対日感情が非常によい国で、イレスカス村役場を訪ねたときも日章旗を掲げて歓迎してくれました。この村では地場産業であるレンガ工場を視察。近代的オートメーション工場が生産しており、先進国への仲間入りのため積極的な努力をしていました。

*

フランスは今回の研修でもっとも長く滞在した国です。ボルドーの近くにあるサンテミリオンは丘陵地帯でブドウ畑が果てしなく続き、ところどころに民家と

海外研修 報告その2

世界の一流品づくりを

鈴木康宏

ワイン工場(シャトー)が森に囲まれて建っていました。

工場は朝日町ワインの工場くらいで、すべて自家栽培、自家醸造で生産しております。品質は世界一です。このワインは工場の地下にある自然の穴ぐらに保存し、気候、風土をうまく利用していること、タルは新しいものしか使わないことなど原料はもちろん品質管理に



西ドイツ、アウグスブルグの街

ついて研修してきました。サラリーでは町役場で過疎についての意見交換会があ

りました。この町も若者の都市への流出がひどく、過疎に悩んでいることや結婚難についても報告がありました。

制度の違いなどもありますが、過疎はどこでもおこる現象であり、地域開発、地場産業の育成(フォアグラの生産)について真剣に取り組んでいました。

*

西ドイツ、ミュンヘン空

港からアウトバーンをバスで一時間。アウグスブルグに着き、ここからさらに二十分ほど内陸へ入ったところが最後の研修地、ツスマスハウゼンという市です。

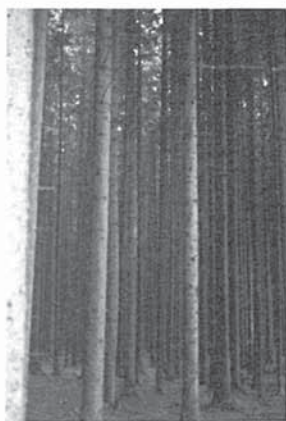
ここでは営林署を訪問し森林の状況と地場産業について説明を聞きました。森林は五十四平方メートル。フィッテというマツ類がほとんどで、この黒い森があちこちに点在していました。

この森は日本のような自然林はなくすべて人工林で、八十年もたったマツを利用しての地場産業(合板工場、製材工場)が盛んに行われていました。

最後に今回の研修で感じた点をあげれば、

①日本の工業製品はもとより、日本人旅行者、在留日本人がいいたるところに入り込んでおり、日本が世界の中で重要な位置をしめていることを体で感じてきた

品はもとより、日本人旅行者、在留日本人がいいたるところに入り込んでおり、日本が世界の中で重要な位置をしめていることを体で感じてきた



ツスマスハウゼン市のマツ林

ように思います。

②道路や建物を造る場合、ヨーロッパ人はまわりの風景や建物との調和をとっても大切に考えます。このようなことは日本でもぜひ必要なことではないでしょうか。

③過疎対策のためこの自治体もワイン、フォアグラ、レンガ、家具など世界の一流品づくりを進めていました。わが町も世界の一流品づくりを積極的に進める必要があると思います。いずれにしても、日本は経済も生活も自然もいかに豊かであるか痛感して帰ることができました。このすばらしい日本の国を築き上げてきた人々に感謝しながら私の報告といたします。

小さな庭の片隅で、紅梅のつぼみが少しずつ赤みをおび、確実に春の訪れを知らせてくれる。

どんな境遇に生きていようとも、公平に四季はめぐって来てくれる。

「会社でも組織でも人間が集まって何かやろうとするところでは、必ず一人ひとりのヤル気がものをいう」

また、「人々具足、個々円成、人間は何もかも全部

最初から備わっており、生まれながらにして活動しようというパワーを持っていることを、まず自覚すること

人々具足、個々円成

東京連絡事務所だより No 37

とが大事」

そして、「意気あるとき意気呼び、風流ならざる処また風流」というように

すべて意気と意気との融合によって成り立つという。

六十四年を開村目標にとりくむ家族旅行村づくりも

ターゲットをしばらく町全体がヤル気とパワーを集結、一人ひとりが運命共同体なんだという意識を持って当

たれば、必ず良い結果が生まれると信じてたい。

前おきが長くなりましたが、六十一年度連絡事務所の行事目標を記し、みなさまの御協力と御指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

① フィリピンとの国際結婚(目標四〜六組)

② 東洋大学野球部合宿

(八〜九月の予定で、理事長と折衝中)

③ ワインまつり、スキー

ツアーの折、東京の女性と町青年との交流会

以上三つにスポットをしばらく進めるほか、リンゴキヤンペーン、旅行村のデーター集計など、その場に応じて頑張るつもりであります。

どうか今年もよろしくお願い申し上げます。

(大井尚武)



立木線問題

町代替バス運行へ

山交バス宮宿―立木線の問題については、これまでいろいろな面から検討されてきましたが、このほど町の態度としては、山交側の廃止はやむを得ないと判断、しかし住民の足としてのバスはぜひ必要であるとの観点から、山交バスにかわる代替バスを運行させることになりました。

立木線の問題は、昨年三

月末現在の乗車密度が五人を割り、第三種路線に格下げられ、廃止対象路線になった旨を、山交側から町に對して申し入れがありました。

その後の調査でも、乗車密度は減る一方でしたが、町と沿線住民代表は山交側に対し、運行を継続するよう陳情を重ねてきました。事態の明るい進展はなく

議会や町でその対策を検討する一方、沿線住民との会合を開き意見を聴取しました。その結果、住民の足を守ることはぜひ必要、しかし、山交バスをこのまま運行させるのにはばく大な経費負担がかかるため、町の代替バスを走らせることになりました。

代替バスの運行方法や経費などについては今後十分検討していきます。なお、代替バス運行予定の六、七月ごろまでは、山交バスがこのまま運行されます。



カード利用の落とし穴

クレジットカードは、サインをするだけで食事や買物などができ、支払いは約1カ月先かボーナス時の一括払い、または分割払いなど、一定期間の延べ払いができるので、たいへん便利です。

そのうえ、暗証番号で現金支払機からお金を借りたり、海外で利用できるものなどカードの利用範囲が広がり、いっそう便利な印象があります。

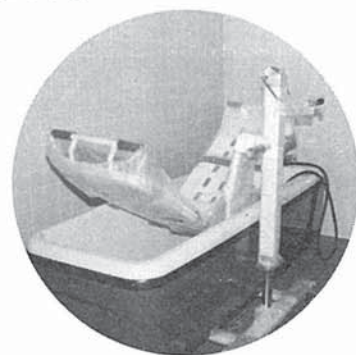
しかし便利さの反面、後日に支払い義務が残る、一括払い以外は延べ払いの利息を含めた手数料も加算されます。利用の際は支払い能力と手数料を考え、これまでの借入金残高も考慮し、無理のない範囲で利用しましょう。



▲病棟が完成し、医療福祉はますます充実する（南側から写す）

殿堂りっぱに完成

病棟やレントゲン室



◀身障者用浴室

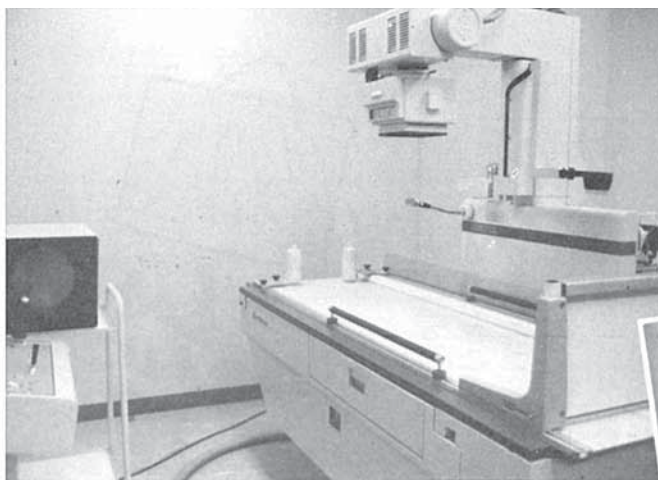


▲とっても明るい雰囲気病気が早く回復させそう（手すりにも細かい配慮が）



▲シャレた電話室。プライベートが守られる

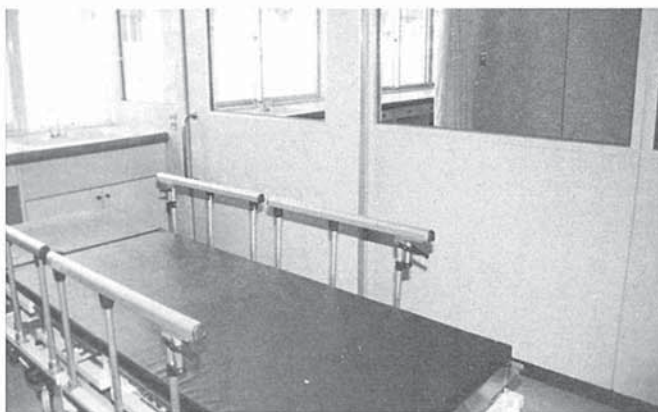
カメラあぐる



▲医療機器も最新型を導入



▲新生児室があたらしく設けられた



▲重傷患者監視室はナースステーションの隣りに



▲広々としたホール。奥はモダンな面会室



▲南側につくられた明るい病室

町民医療の

2年日事業で

* お産室や浴室も新しく

町立病院改築事業2年目に当たる今年度は病棟の改築。昨年6月着工いらい予定どおり工事が進み、2月末見事に完成しました。

病棟は鉄筋コンクリート造り平屋で延面積は約1,104㎡。工事費は2億6,505万円、医療機械・備品が5,874万円で、60年度の総額が3億2,379万円となっています。

施設内容は、病室23室をはじめ分娩室、レントゲン室などが新しくなり、身障者用の浴室や便所などが新設されるなど、細かい配慮がなされています。(年金積立金還元融資の施設です。)

● 町立病院利用あない

受付／午前8時30分～11時30分

(急患の場合はいつでも)

面会／午後1時～7時

※日曜・祝日・夜間も医師は当直しています。



いじめをなくして明るく学校

父母と教師の緊密な協力のもとに

仲間はすれに耐えられずトイレに駆け込み

何度泣いたことでしょう。ある日、こんな言

葉が頭をよぎりました。「死」です。……こ

れはいじめを克服した女子中学生の作文の一

節ですが、いじめのない学校づくり、仲間づ

くりをしようと、学校、家庭、地域みんな

が知恵をしぼり努力しています。

いじめから立ち上がって

●先生が友達と話し合う機会をつくってくれました。

三対一の三日間にもわたる

長い話し合いの結果、仲間

はずれの原因がわたし自身

にもあることがわかりまし

た。

忠告されたことに気をつけながら生活をしていると、ほんの少しずつわたし

の性格が良くなっていくように思えました。

そして二週間後、友達から「おはよう」と声をかけられた時のうれしさは、今でも忘れることができません。

その後、わたしは自分勝手な行動をさけ、明るく友達と交わるようになり、友

達の大切さもわかってきました。

(中一女の作文から)

●A君(小二)は、口は達者なのですが行動が伴わずみんなの仲間入りができず困っていました。

ある日、ふとした事からクラス全員からふまれたりけられたり、おされたり、息も止まるかと思うほど恐ろしい目に合いました。

いじめた子は、

「ブレスごっこをして

いたんだよ。A君は弱いんだからもっと強くなればいい」

と言いはります。

いじめと遊びのけじめを知らない子どもたち。担任の先生は遊びの中に入りこみました。みんなで作戦を考えれば、足の速い子もつかまるし、みんなで力を合

わせれば自分も勝つことができるというわかってきたA君は、授業が終わるとすぐ、みんなをさそって遊ぶようになりました。

●「またかっこつけて、きのうとちがう服を着てきた」と服を引っぱられたり、たたかれたり、毎日のいやがらせに、登校時には必ず食べたものをもどすようになつたB子(小四)さん。それを知った近所の友

一人ひとりを

大切にすることを育てる

学級の子どもたちの中には、友だちと仲間を作ることでできず自分の気持ちを表わさない子、自分の身のまわりの整理整頓ができない子、自分の意にそぐわ

達のお母さんがたが、自分の子どもたちと仲よしグループを作ってくれ、何かと面倒を見てくれました。

仲よしお母さんグループの人数がふえるにつれて、子どもグループも大きくなり、今ではすっかり笑顔を取りもどしました。

ないと先生に対しても不満を言う子、仲間うちで自分勝手にふるまっている子ども、自分では手を下さずに悪さをそのかしている子、強い子にいじめられ



思いやりと豊かな心を育てたい



伸び伸びとした子どもたちの活動を助けていきたいもの

るので自分より小さい子を
いじめる子など、いろいろ
な問題を持っている子が
います。

でもその一人ひとりが大
切な子どもですし、だれか
ら人間として大切にされ
なければなりません。です
から集団生活の中にきまり
や約束が生まれ、それを守

る必要があるわけです。

その人の持っている良さを認めること、お互いに仲よく遊ぶこと、人のいやがることをしてはならないこと、自分勝手な行動は仲間を苦しめることなどをきちんと教えていくことが大切です。

また、いやなことは「い

やだ」と言えることや、「いやがっているからやめろよ」と言ってやめさせる

ことのできる子どもに育てていかなければなりません。

いじめを許さない

学校づくりのために

町内のある小学校の指導例を紹介すると、まず、学校の先生がた全員がいじめを憎み許さないという姿勢を示しています。

いじめられる子といじめる子の言い分に耳を傾け、心の中まで思いやり、事実関係を正しくとらえ、「良い事は良い、悪い事は悪い」と言える、子どもに頼りにされる先生でありたいと努力しています。

また、子どもたちは何かおもしろい事をとてもやりたがっています。ですから先生は子どもに魅力のある

ものを準備し活動の場をつくり、子どもの持っている能力を十分に発揮させています。子どもの心を燃えさせたせるもの、熱中させるものはないかと工夫を凝らしています。それは勉強だったり、スキーだったり、誕生会、部活動、合唱だったりいろいろあります。

学級や学校全体で一つのことに打ちこみ、子ども同士の結びつきを強めるために、先生は子どもを見つめ、励まし、積極的に働きかけています。

父母と教師が手を組んで

いま起きているさまざまないじめは、複雑な問題を含んでいますから、学校と父母が、父母同士が本気で話し合い、心を一つにして

取り組んでいかなければなりません。

いじめっ子の父親の「弱い者をみんなでないめるなんてとんでもない

い。ほんとうの男の強さはそんなもんじゃない」という一言がずしんと心にひびくでしょうし、いじめられた子の母親の「そんなに苦しいのなら学校を少し休んでみなさい」

という優しい一言がかたくなになった心をどんなにやわらげることでしょう。

父母からの連絡でいじめの実態が明らかになり、解決のための話し合いが何回も行われた例もありますし、学級親子ゲーム大会や親子スキー教室を開いて、親同士が知り合い、子どもも仲間作りをするようになった例もあります。

教師と父母が本気になって子どもと向かい合い、不正や不平等をきちんと教えた時から、子どもの人格を尊重して励ました時から、子どもたちの中にあるいじめは消滅すると信じます。父母と教師が子どもを育てるための真の協力者になりましょう。

(編集／教育広報委員会)



フレッシュ 朝日の若者

ことし朝日分校を卒業し
地元就職する顔々



常盤 長岡 元広くん

家業の農業に従事。高校時代は写真愛好会に入っており活動。とくに、野山や川などの自然を撮るのが好き。朝日分校は小さいなりに良い面もたくさんある。それらを生かした学校づくりを。



松原 井沢 秀紀くん

アサヒニクニへ就職。わからない事もたくさんあると思うが、そのままにしておかず進んで人に聞いて身につけていきたい。

「人と人とのふれあいを大事に」がモットー。町のテニスコートで町民大会を。



元町 鈴木 敏彦くん

朝日相扶に就職。社会に出るのは不安だが、町内に残る仲間といっしょにがんばっていききたい。

「相手を悪く言う前に、自分を見つめ直す」がモットー。朝日分校の行事を活動に。熱中する人物に。



大谷4 白田 信一くん

スーパードラッグへ就職。これからは何事も自分の責任で行動しなければならぬ。いっしょうけんめいやって、自分で満足できる仕事をやりたい。

朝日分校の生徒数をふやし、さらに発展するように。



宿 相座 明美さん

医療事務の学校へ通い、資格を取って町内に就職するのが希望。いまは不安もあるが、希望もあり入り混じった気持ち。

華道部で習った生け花やペーパーフラワーを、これからも続けていきたい。

この広場は、町内の話題や皆さんの声をつくるページです。
どしどしお寄せください。

みんには 保健婦す

脳卒中の予防は

自分の手で



脳卒中発症の危険度の高いものが学問・研究の結果少しづつわかってきています。この中でも高血圧がその要因として高いので、この血圧のコントロール(管理)が大切となります。また、合併症の予防が大切です。

す。つまり、高血圧の予防が脳卒中の予防になるわけです。

脳卒中は、高血圧の治療や生活の注意など十分な血圧管理をしないで、放置している人々に多く発生しています。このことが脳卒中による死亡や、ねたきりなど高度の後遺症を減少させるために、高血圧の予防と管理が必要な理由です。

高血圧に関する診断には、問診・血圧測定・尿検査、心電図検査、眼底検査、コレステロール検査などがあります。わが町では、集団検診(一般健康診査)でこれらの検査がうけられるようになってきています。60年度までは精検の必要な人だけがこれらの循環器検査を受けていましたが、61年度は一般健康診査に申し込まれたかた全員に実施することになりました。簡単な検査ですので、年一回は定期的にうけたいものです。

日常生活で特に気をつけたいことは、食塩のとりすぎをなくすることです。減塩しょうゆや食酢、香辛料をじょうずに使ってうす味で食べるようにしましょう。



青年の声町政に

青年議会で熱弁ふるう

わが町の課題をさぐり、青年の意見を町政に生かしてこうと、二月二十三日青年議会が開かれました。この日会場になった町議会議場には、青年議員と町執行部のほか町議会議員がおおぜい傍聴に詰めかけました。まず小林町長が最近の町政について報告。一般質問に移り、現在町が抱えている課題や問題点などについて青年議員が熱っぽい調子で町側の姿勢をたどしました。最後に、国際社会へ向けての決議をして閉会しました。

* 質問と答弁の要旨

●加藤正彦 冬期間の歩道除雪を徹底し、歩行者の安全を確保すべきと思うが。

●町長 歩道の除排雪をする場合、二層以上の幅員をとらないとロータリー車が入れない。これから新しく整備される部分についても、幅員確保を要望したい。

●佐藤英紀 ガードレールの修理とフッション性について

●建設課長 町道のガードレール修理については、豪

雪の年であれば認められる。それ以外でも補助があるので活用し対処したい。観光客が通るのは国道であり、町独自で個性あるものに変えていいものか、折衝する必要がある。

* *

●阿部喜夫 山交宮宿―立木線のバスが廃止されるということだが、その対策は。

●町長 乗車密度が五人未満の第三種路線に格下げになり、廃止となるのはやむを得ないようだ。その対策として町代替バスを走らせ

たいと考えている。

しかし、沿線のかたに乗ってもらわなくては、この経営もたいへんになるのではないか。

* *

●阿部直行 一村一品運動で、朝日町では山菜を奨励しているということだが、どう対処しているか。

●町長 一村一品だけでなくワインとリンゴがある。山菜は西部地区の高齢者を中心に、ギョウジャニンニク、シドケ、アイコなどを栽培している。

* *

●長岡裕二・鈴木和美 家族旅行村がスタートしたわけだが、大型プロジェクトのわりに町民がいまいち感じていないのではないのか。構想と価値感についてお聞きしたい。

●町長 日本人は働きすぎだと欧米人からいわれており、一方ではメカトロニクスの進展によっても人は労働から解放され、余暇がふえてくるであろう。また、現代社会のひずみでノイローゼになったり、

ストレスが蓄積しており、自然に親しむことによって人間性を取りもどそうとする人がふえてくる。

このような情勢に対応しようとして、自然体験型レジャーの基地として旅行村を計画した。事業費は、補助事業を中心に盛り込み、十四億五千万円を見込んでいます。

* *

●菅井克幸 リンゴの町のイメージをさらに強めるために、リンゴ博物館のような施設が必要ではないか。

●町長 必要性は感じていますが、その前にリンゴ生産面でもっと取り組むべきことがあるのではないか。

* *

●川口敏之・高橋順子 健康増進センターが設置されたが、そのPRと指導員の必要性について

●町長 だれでも使える簡単な器具ばかりで、とくに指導員の必要はないと思う。PRはやっていきたい。

* *

●鈴木浩幸・佐藤早苗 高校生の意識をどうとらえ教育を進めているか。

●教育長 生徒に対する意識調査の結果をもとにつくった教育指針を基本として、わが町の教育を進めている。

●斉藤了子 高校朝日分校の必要性をどのようにとらえているか。

●町長 朝日分校はぜひとも必要で、存続することは決まっている。今後、独自の校舍整備計画をつくり、果へ要望していく。



当面する課題について次々と質問する青年議員

忘れたいふるさと

桂木章宏さん

《山形市城西町三丁目4-10》



*プロフィール

- 昭和22年／大沼生まれ
- 昭和39年／加藤桃菊師に弟子入り
- 昭和44年／庄司満里子師から三味線を習う
- 昭和48年／藤本流三味線の師範となる
- 昭和49年／日本民謡学院の嘱託講師に
- 昭和53年／キングレコード専属となる
- 現在／桂木会々主
(本名・白田章)

私は、朝日町大字大沼出身で父母の仕事は農業でした。小学校は大沼分校、中学は大谷中学校を卒業し、山形に来たわけですが、この間十五年という年月を朝日町で過ごしました。

中学校時代は学校に行くまで二時間という長い道のりで、つらい思い出でしたが、学校の帰りには魚釣りをしたり、秋には山ブドウ・アケビなどをとりながら楽しく通学しました。冬には雪が多く通学がむりなので、学校のそばに大沼の人たちの冬期間だけの寮があり、ここから通学しました。

私は、子どものころから体が弱く、父も病気で小学一年の時に他界しておりま

したので、家族全員の話合いで、故郷をはなれ山形に来ました。

その後、会社につとめながら、子どものころから好きだった歌の勉強をし、民謡のキングレコード専属『桂木章宏』の芸名でデビューしました。また、藤本流三味線の師範『藤本秀章』の芸名をいただきまして、民謡・三味線・歌謡曲の道場を開くことができました。会の名称も桂木会と称し、各地で歌を歌ったり、会員の指導を行なっております。

時折ふるさとを思い、会員と共に大沼でいもに会をやったり、くり園を見学したり、また、家族全員で一年のうち二回ぐらいは遊び

熱戦、白倉スキー大会

☆町外からも参加して

去る二月十六日、第二回白倉スキー大会が開かれました。ことは、町外からの選手もおおぜい参加して実力を競い合いました。成績は次のとおりです。

■女子回転

▽小学四年Ⅱ①堀由紀子
(大谷) ②佐久間知子
(同) ③多田佐代利(朝日スポ少)

▽小学五年Ⅱ①鈴木麻姫

(朝日スポ少) ②志藤春美(同) ③長岡佐知子(上郷)

▽小学六年Ⅱ①阿部美奈子

(朝日スポ少) ②長岡妙子(上郷) ③山村淳子(朝日スポ少)

▽中学Ⅱ①阿部秀代(朝日スポ少) ②阿部聡子(同)

▽高校・一般Ⅱ①長岡成(上郷小)

■男子回転

▽小学四年Ⅱ①志藤俊幸(大谷) ②菅井奈穂(和

合) ③峯田雄一郎(朝日スポ少)

▽小学五年Ⅱ①海野秀明(宮宿) ②阿部慶一郎(月山スポ少) ③飯野克之(同)

▽小学六年Ⅱ①志藤治(大谷) ②柴田広幸(上郷)

③相座和美(送橋)

▽中学Ⅱ①阿部勝(朝日スポ少) ②鈴木俊行(同)

③松田道典(朝日中)

▽高校・一般Ⅱ①高橋益男(米沢市) ②柏倉敬一(朝日分校) ③小川典道(ハイジクラブ)

■男子大回転



スピードに挑む

いま 朝日校で

今年の予餞会は、たいへん盛り上がったものとなりました。とくに三年生の行動力には圧倒されました。最初に予餞会実行委員長の堂々のあいさつ。イベントとしてカラオケ大会があ

予 餞 会

りました。一位はオニャンコクラブ、二位尾崎豊、三位トンネルズという結果になりました。

そして感動のフォークダンス。全校生徒がミラーボールの下で三年生の別れを惜しむかのように、しかしそれだけで卒業を祝うかのように。

三年生の行動力にはびっくりしました。われわれのやっている変わり映えのないフォークダンスに物足りなさを感じたのか、突然体育館の中央で踊りだした



のでした。それも全身をつかって、くるったように。一、二年は、圧倒されて、見とれてしまったほどでした。

そして三年生のコンサート。ここでもアンコール、アンコールの連続でした。先生がたのすばらしい歌のあと、予餞会は幕となりました。「先輩がたに良き思い出を」

(総務副部長・小川尚道)

ふるさと への便り

▶ 44 ◀

に行っております。

子どもたちも四季折々の雄大で素朴な自然が好きで、朝日町に行こう、行こうとときどき言われます。

ふるさとへ帰るとき、いつも思うのは、浮島観光のためにも、大谷―大沼間と宮宿―大沼間の道路をもっと拡幅整備してほしいという事です。また、毎年ワインまつりが開かれている

そうですが、まだ若干PR

不足という気がします。新聞広告を利用した宣伝活動をしたらどうか。

一方では、国際化時代といわれるなかでのフィリピンの花嫁さん、とても感動しております。

朝日町の皆さん、また同級生の皆さん、体に気をつけて、雄大な自然を大切に飛躍してください。

ワインとフーズの 家庭料理

④グリーンサラダの 赤ワインソース・4人分

■材料

貝割れ菜 1パック、サラダ菜 2束、レタス 4分の1株、キュウリ 1本、トマト 1コ、セロリ 2分の1本

赤ワインソース

赤ワイン 1カップ半、ベーコン (細切り) 100g、コーンスターチまたは片栗粉 小さじ1 (少量の赤ワインでとく)、塩 小さじ 3分の

2、こしょう・さとう 少々

■作り方

- ①野菜はそれぞれ食べやすい大きさに切り、冷水にとりバリッとさせ、水を切っておく。
- ②トマトは小さい角切りに。
- ③ベーコンは湯通しをし、塩気、脂分をぬく。
- ④フライパンでベーコンをサッと炒め、ワインを加えて、一煮立ちしたら、塩、こしょう、さとうで味を整え、コーンスターチを加えとろみをつけ、盛りつけた野菜の上から熱いソースをかける。

☆しゃれたソースのサラダ。
だんな様のビールやウイスキーのお友にぜひどうぞ

(広報委員・柴田泰子)

- ▽小学六年Ⅱ①柴田広幸 (上郷) ②長岡孝明 (朝日スポ少) ③長岡貴幸 (同)
- ▽中学Ⅱ①鈴木俊行 (朝日スポ少) ②松田道典 (朝日中)
- ③阿部勝 (朝日スポ少)
- ▽高校・一般Ⅱ①小川典道 (ハイジクラブ) ②高橋益男 (米沢市) ③阿部芳久 (朝日分校)

昨年六月、中国から農業研修生として日本に派遣された謝鳴さんと寧波さん。朝日町に滞在し、県園芸試験場などで研修を積みながら、町の青年との交流を深めてきましたが、四月下旬で研修を終え帰国します。町での生活もわずかとなったお二人に、これまでの体験を通して感想を述べてもらいました。

忙しい日本の生活

浙江省・雲南研究所研究員 謝 鳴

日本へ来て、あっという間に十カ月たちました。お別れの日がすぐにくるのを考えると胸が波立って、いろいろなことを思い出します。

最初のころ私は、大都市に住んだらいいなと思った時があったが、まもなく朝日町へ来てよかったと思いました。朝日町はにぎやかではないけど、ワインやりんごなどは全日本でとても有名です。山も水も自然景観として早くから知られたところでした。

冬になり雪を初めて見て

びっくりしちゃった。でもその美しさは忘れられせん。もちろん、町の人々の熱心さにも深く感銘をうけました。私はどこへ行っても笑顔で迎えられる、いろいろと氣を使っていたが、自分の家に帰った感じがいたします。

研修は、おもに県立試験場で果樹栽培を勉強しました。研修内容はわかりますが、実際の技術は、中国に比べると進んだところがいっぱいあります。ほかに、町のワイン工場などへ見学に行つて見識が広くなりま

した。

日本の風俗習慣と礼儀作法はわかるようになったと思つています。例えば、お正月とお盆が二大行事なんだとか、お辞儀をしたり会釈をしたりします。

日本の食物にはすぐに慣れましたけど、日本料理はあっさりしていると思ひます。生活は忙しくてたいへんでした。

中日両国は一衣帯水の近隣ですし、二千年余りの長

とても詩的な朝日町

吉林省・農学院教師 寧 波

光陰矢の如し——冬が去つて春が来ました。私たちが朝日町に来てから九カ月余りになりました。町役場、青年団、町民の至れり

尽くせりの御配慮にお礼のことばもなく、忘れようにも忘れられません。まもなく帰国になるので、とてもお名残惜しい気持ちです。

日本のすべてが私にとつて未知でした。しかし、詩的な朝日町は、私をひきつけてくれました。町が山々

い友好の歴史を持っています。日本の皆さんもおおぜい中国にいらつしやるようになりまして。相互の訪問を通じて、いろいろな面で両国人民の友好はますます深まってきました。

私はそれを非常に喜んで中日友好の事業に最大の努力をしたいと思つております。最後に、たいへんお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

に包まれていて、樹木が繁茂し、草花が群生していました。町は最上川に横切られ、ほんとうに山紫水明でした。

秋になると、みずみずしいブドウや甘美な朝日富士がどこにも見られて、赤白ワインはどこでも人を誘う芳香を漂わせています。

冬になると至るところが白い雪でおおわれ、まわりの山々はあたかもなやかに踊る銀の蛇のようであ

り、日に当たるとびかびか輝きます。

町民たちは戦争を憎しみ平和を愛しています。そして国際的な交流を行なっています。それは全人類の相互理解のために重要な意義を持っています。

おばあさんは寒いときにじゅばんを贈ってくれ、おじいさんは新鮮な野菜を持ってきてくれました。おばあさんは料理をつくってくれ、おじいさんは見学につれていってくれました。青年たちは、私どものために生活と学習の用品を準備してくれました。小学生は私どもに心の言葉を話してくれました。バス待合所では、女学生から日本語学習の指導を得ることができました。

朝日町に感謝する気持ちが言葉だけでは表わし得ないのであり、朝日町のご恩は終生忘れることができます。

中日両国々民の友誼がいつまでも続くことを願っています。

和気あいあいと 卓球まつり

☆太郎が優勝

卓球を通して体力づくりをと、三月二日町民体育館で町民卓球まつりが開かれました。

チーム編成は区単位で七チーム(約百名)が参加。小学生から壮年層までの選手で熱戦が展開されました。

●団体戦

▽①太郎 ②常盤 ③三中

●個人戦

▽小学男子シングルス

①工藤清隆 ②長岡裕二

▽同女子

①宮本律子 ②多田瑞穂

▽中学男子同

①浅井周一 ②鈴木幸雄

▽同女子

①鈴木美千代 ②志藤裕子

▽一般男子同

①鈴木暢明 ②小松義春

▽シニア男子同

①佐竹 正 ②布施次男

▽夫婦ダブルス

①鈴木藤七・とみ子組

②志藤正清・芳子組

古道を たずねて ②③

春は名のみの

風の寒さよ

谷の鶯唄は思えど

時にあらずと

時にあらずと

声もたてず

川面を渡る弥生の風は肌寒い。堺松の渡し場は今平と、白鷹町大瀬間の渡し場



この渡しは今平の人々にとって重要なものであった(右後方は今平集落)

堺松の渡し

今平⇄白鷹町大瀬

た村は、今平を中心として柳窪(今は廃村)、大瀬、平田の村々であった。最上川はこれらの人びとにとっては大切な水上の生活路線であった。

積み荷については今平の鈴木今治区長さんは語る。

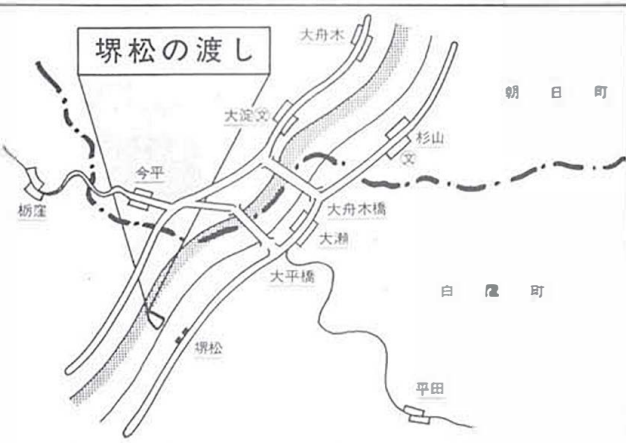
「入り荷としては塩、塩魚、酒及び木綿などであった。出し荷では古くは漆、靱、靱で、明治以降は木炭、桑、まゆなどであった。物

資はすべて荒砥中心であった」と。やはりこの地区一帯は昔から荒砥の商業圏、経済圏に入っていたのである。今平から荒砥まで八丁、宮宿までは十二丁で、やはり荒砥が今でも便利である。

舟頭については、阿部正男さんが面白く語る。

「長らく舟頭をやったのは大瀬、堺松の吉田角松であった。大正の始めは舟賃

二銭でその後三銭にあげた。時おり舟が流されて大騒ぎをした。角松がやめた後は孫の和夫と妻なつえ(杉山出身)が舟頭をやった」と。洪水で舟を出せない時は五百川橋か荒砥橋を回って対岸に出たと古老は語る。



婚姻関係や文化圏も深いつながりをもっている。

白鷹町から今平に嫁に来た現存の人十六名、今平から白鷹町に嫁に出た人十二名現存すると古老は語る。最近今平、大舟木地区に夢とロマンの光明が訪れんとしている。それは丸正食品KKの進出によって自然食品、健康食品の一大宝庫にならんとする朗報である(文/広報委員・長岡幸助)



61年2月1日～2月28日届出

* 出生 *

区名 出生者氏名父名 続柄
栗木沢 遠藤雪華 秀明 二女
西町 浅岡千賀 清二郎 二女
四ノ沢 清野貴裕 英美 長男
前田 鈴木里奈 義弘 長女
舟渡 五十嵐江利義信 長女

* 死亡 *

区名 死亡者氏名年齢世帯主
常盤 長岡文治郎 78 あさひ
四ノ沢 海野 キヨ 87 知 芳
四ノ沢 清野 龜治 80 健 一
白倉 阿部 みつ 93 則 夫
川通 志藤 たつ 92 長太郎
太郎一 長岡 いく 78 勉
中沢 堀 やす 93 健 吾
古 鎮 清野 俊男 55 正 美

* 結婚 *



新宿 熊谷 克己さん
由美子さん



(広報委員・蒲川清二)

「小さい時に母親を亡くしたので、母親のいる家に嫁ぎたいと思っていました」と由美子さん。これまで母親に聞けなかったことなど、いろいろ教えてもらえてたいへんためになるという。
すぐそばで「この人を必ず幸せにしたい」と、包容力あふれる克己さん。
近所の人とのつき合いの絶えない明るい家庭ですが、二人の愛の結晶で家族をふやし、もったにぎやかな家にしてください。

大谷二 佐々木望美 二女
西船渡 吉田理沙 春二 長女

真中 寒河江市
五十嵐 亨 富樫千代子



このほど次のかたから、善意が贈られましたので御紹介します。

▽沼向の鈴木勝昭さんから和合小へ、ラングラウフスキー靴十三足(五万円)
▽本町の長岡忠典さんから、宮宿小百十周年記念植樹として桜苗木十五本(二万円)

▽常盤の阿部幸作さんから中央公民館へ、複製画モナリザ(二万円)

▽大町の鈴木秀芳さんから、さゆり保育園無曹文庫の充実のために図書(五万円)

▽埼玉在住の関口俊邦さんから送橋小へ、図書(八万九千円)

情報

パツク

大谷剣道少年団が
全国大会へ出場
大谷剣道スポーツ少年団が、

三月三十日水戸市で開かれる全国小学生剣道大会に出場することになり、上位進出をめざし現在、猛げいを続けています。町民みんなで温かい声援を送りましょう。

アイスワイン

3月19日発売



ロゼと白が発売される

85年産良質ブドウを醸造したアイスワインが三月十九日から発売されます。

アイスワインは昨年度初めてロゼ七百本を試作し発売したところ、たいへん好評で、二年目のことはロゼに加え白も醸造。それぞれ二千本ずつ売り出すことになりました。

アイスワインは、凍結させたブドウ(氷果)をしほってつくられるワインです。余分な水分をとりのぞき濃厚で香り高い果汁のエッセンスだけを低温発酵させたもので、糖度は普通の二倍に当たる三〇割もあります。

価格は白が二千円、ロゼが千五百円です。最寄りの酒屋さんでお求めください。



どの村も春間近いころ祭りの準備にとりかかる。わが村にここ数年の間、二つの祭りが復活した。江戸時代から伝わる子守観音祭りで、子どもらの憧れとなっている。

▼一方、三十七年間も絶えていた伝統の「弥十郎田植踊り」が昨年復活、大勢集まった村衆の前で披露された。古くから村に伝わっていたこの田植踊りは、豊作を祈願する素朴でかつ静かな舞である。二十三年まで続いたが、高度経済成長、若者の都市流出などが要因となって、その後絶えていた。▼農村の文化を傳承することに先づき、郷土の歴史を学び村おこしの起爆剤となる。幸いにして能面、衣装などが大切に保管されており、農村文化「舞」も古老たちによって復活され若者に受け継がれることになった。

▼町内の村々にも、すぐれた郷土芸能、埋れた伝統芸能が数多くあると思う。みんな掘り起しに努めたいものである。昭和六十四年に開村されるであろう白倉家族旅行村の屋外音楽堂で、多くの町民の集うなか大発表会をしたいものだ。(拓雲)